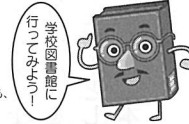


図書館教育ニュース

◎少年写真新聞社 2026



令和8年4月18日発行 第1719号付録

★定期刊物は終わる期間を予定しない刊行物です。年度が替わりましても、購読中止のお申し出がない場合、引き続きご送付申し上げます。
★著作権法により、本紙の無断複写・転載は禁じられています。

株式会社 少年写真新聞社 〒102-8232 東京都千代田区九段南3-9-14HF九段南ビル ホームページ: <https://www.schoolpress.co.jp/>

少年写真新聞
Juniors' Visual Journal

変わる時代に寄り添う「よりみち図書館」

獨協埼玉中学高等学校 司書 渡邊千沙

本校は埼玉県にある私立中高一貫校で、生徒数は約一五〇〇人です。図書館の蔵書数は、約五万五〇〇〇冊。専任司書二名とスタッフ一名が常駐する、恵まれた環境です。

来校者の方からは、よく「本屋さんみたいですね」と言われます。窓や廊下といった館外も含めて、図書館の装飾に気を配っています。館内に一步入れば大きな展示台があり、横に絵本架が並び、雑誌架や本の平置きスペースが続きます。BGMも小さな音で流しているので、明るい印象を受けるとのこと。「雰囲気が好き」と言ってくれる生徒も多く、閲覧机が並ぶ静かな空間が図書館だと思っている方には驚かれます。とにかく、図書館へのハードルを下げるような図書館を目指し、「よりみち図書館」という通称をつけました。

「あなたが好きなもの、あります」とはいえ、図書館ですから、本を手にとってもらう工夫は欠かせません。丸テーブルを使い、上から表示を吊るすなど、華やかに魅せる図書館を意識しています。「映え」が重要な時代なので、なるべく目立つように、色合いや材料を工夫します。書架に並ぶとつまらなそうに見える本も、面出ししてPOPをつけるだけで面白そうに。なんとなく立ち寄った生徒や授業で来館した生徒の関心につなげるように、展示やコーナーでわなを仕掛けて待っています。

先生方も味方につけて

先生からのリクエストには、できる限り応えるようにしています。「こんな本でもいいんですか?」と言われますが、「あなたの好きな本は、きっと誰かも好きな本だから」と伝えていきます。生徒の読みたい気持ちを大切にすることが、学校全体の読書欲向上につながるはずですよ。

や生徒との雑談の中から知ることも多いです。少しでも図書館が絡めそうな案件があれば、すぐに食いつきます。「その課題、図書館で掲示させてください」「面白そうなので、図書館でも関連本を展示します」など、なんとかして情報を入手し、即コラボして勝手にPRしています。また、先生からの依頼には、基本的には「やります」と言うようにしています。「出張が入ったから、何か図書館でできないか」「来週の授業で〇〇のブックトークをしてもいいかないか」など、大変なことも多いですが、その積み重ねが資料の充実につながっています。課題が出ると、生徒も積極的に資料の相談に来るので、司書自身も成長します。

昨年度は新たな試みとして、出張図書館を実施しました。昼休みに三〇冊程度の資料を載せたブックトラックを教室前の廊下に持っていく、その場で貸出・返却を実施しました。反応が良かったので、定期的に実施しようかと検討中です。

中高生の読書離れを日々感じる中で、いかに生徒と本をつなげるのか。一〇年前と同じことをしても反応が少ないことが増えたので、時代に合った工夫を模索していきたいです。